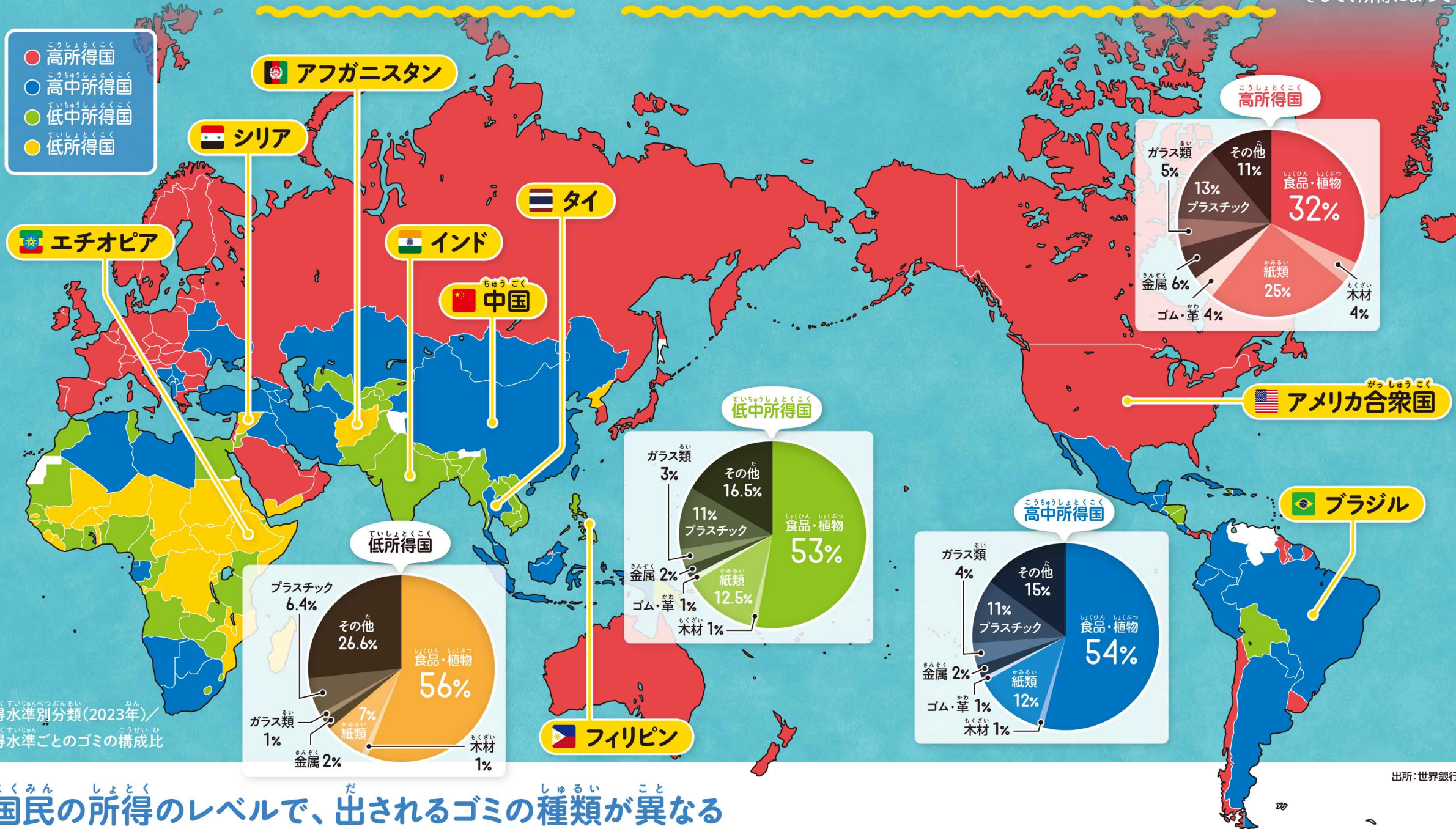


世界の国の所得ランクとゴミの種類別構成比

ゴミには種類があり、国民の所得ランクによって、出されるゴミの種類が異なります。ここでは、それぞれの国の所得がどの程度なのか、そして、所得によってゴミの種類がどう変わるのかを見てみましょう。

世界の国の所得ランクとゴミの種類別構成比

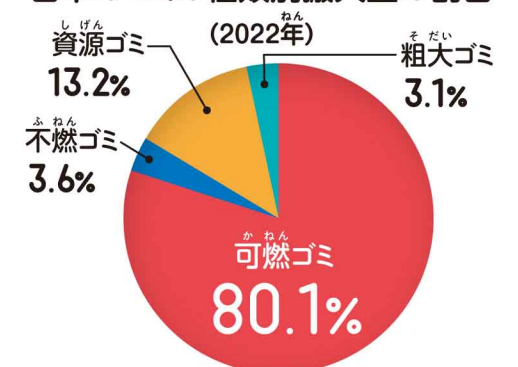
- 高所得国
- 高中所得国
- 低中所得国
- 低所得国



日本のゴミの種類別搬入量

環境省によると、日本の2022年度のゴミの排出量は、約4,034万トンでした。そのうちの約70%は、家庭などから出る生活系ゴミです。日本ではこの生活系ゴミをおおむね「可燃ゴミ」「不燃ゴミ」「資源ゴミ(ペットボトル、びん、缶、紙類など)」「粗大ゴミ」に分類して回収しています。2022年度のゴミ処理場への搬入量の割合は可燃ゴミが最も多く約2,886万トン(80.1%)で、資源ゴミの約476万トン(13.2%)が続きます。ちなみに、都道府県別ではゴミの排出量も搬入量も東京都が最も多く、それぞれ約415万トン、約394万トンとなっています。

日本のゴミの種類別搬入量の割合



出所：データでみる県勢2025

国民の所得のレベルで、出されるゴミの種類が異なる

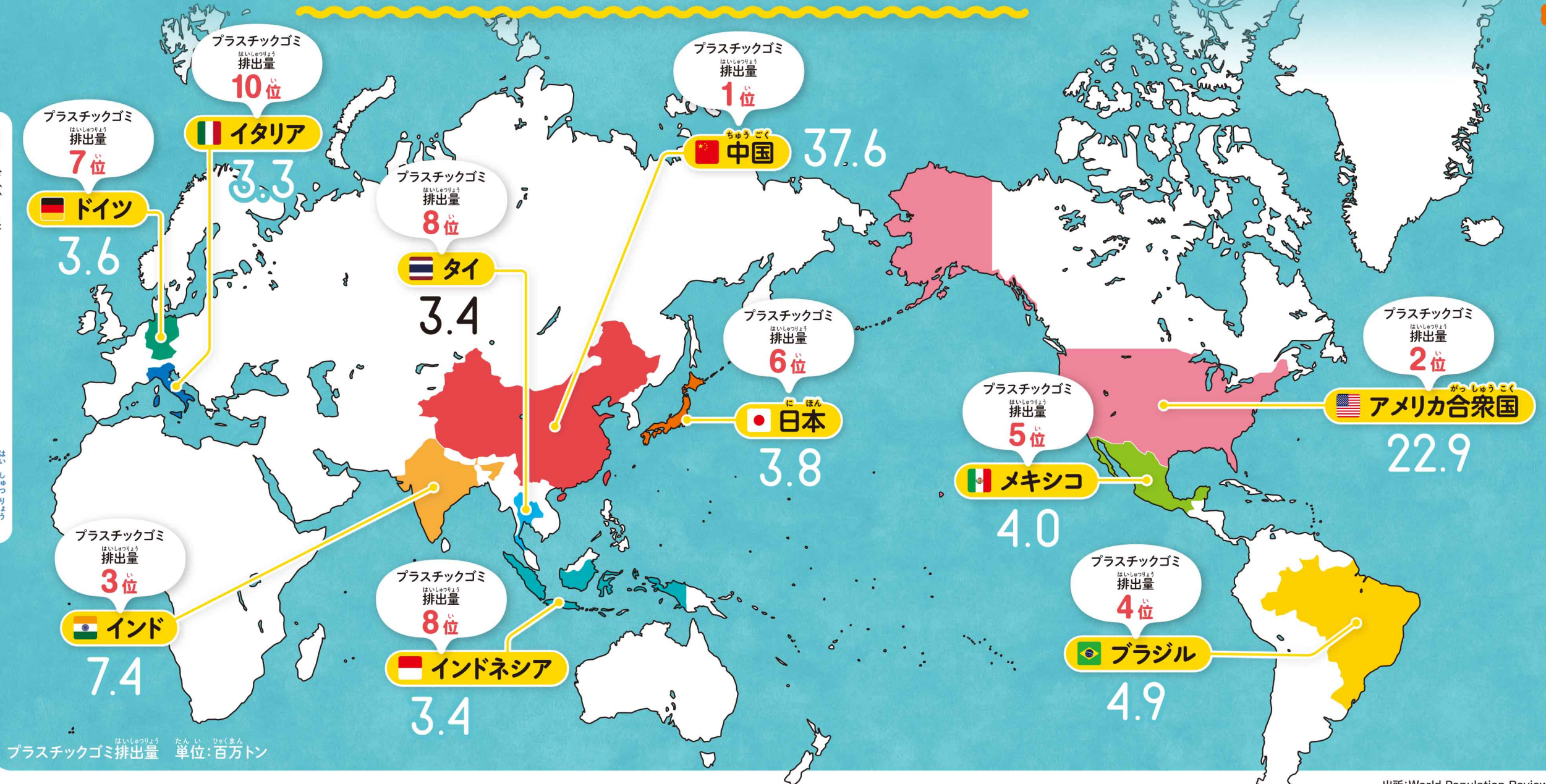
世界銀行は、国民の所得に応じて世界の国々を「高所得国」「高中所得国」「低中所得国」「低所得国」の4つに分けています。日本やアメリカ、ヨーロッパのほとんどの国は「高所得国」、中国やタイ、ブラジルなどは「高中所得国」、インドやフィリピンなどは「低中所得国」、エチオピアなどのアフリカ諸国の多く、そしてシリアやアフガニスタンなどの政情が不安定な国は「低所得国」になります。円グラフで、国別の国民の所得のランクとゴミの種類の関係を見てみましょ

う。ゴミは、食品・植物、木材、紙類、ゴム・革、金属、ガラス類、プラスチックなどに分類されますが、所得によってゴミの種類別の構成比が変わります。たとえば、所得水準が上がると紙類のゴミが多くなり、所得が下がるにつれて食品・植物などの有機物のゴミが多くなる傾向が見られます。ゴミの量は今後も増えていく見通しですが、所得別のゴミの種類別の構成比は、しばらくは変わらないと考えられています。

世界の国のプラスチックゴミ排出量

都市ゴミに含まれるプラスチックは、地球環境への影響が特に大きいゴミです。プラスチックゴミの廃棄量が多い国を見てみましょう。人口の多い国や工業のさかんな国が該当していることがわかります。

世界の国のプラスチックゴミ排出量

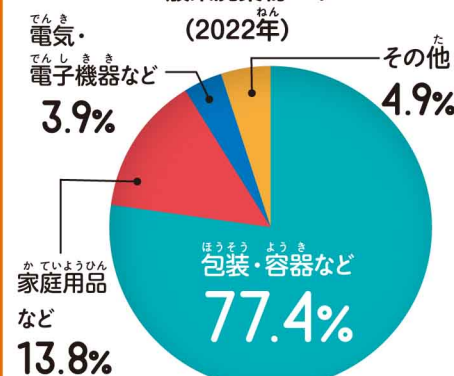


日本のプラスチックゴミ処理

プラスチック循環利用協会によると、日本のプラスチックゴミ総排出量(2022年)は約823万トンです。このうち、一般系廃棄物(424万トン)の約77%が包装や容器に使われたプラスチックゴミです。ところで、みなさんはリデュース(Reduce、以下、説明は28ページ)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle)の「3R」をご存じでしょうか。これは、資源を無駄にしない「循環型社会」をつくるための3つの方針です。日本ではプラスチックゴミについても、この3つの方針にもとづき、優先順位(リデュース→リユース→リサイクル)をつけて処理しようとしています。

日本のプラスチックゴミ分野別内訳

一般系廃棄物のみ



出所:一般社団法人プラスチック循環利用協会

埋め立てられたプラスチックゴミから有害な物質が染み出す

世界中で大量に排出される都市ゴミには、「プラスチックゴミ」が含まれます。プラスチックはほかのゴミと同じように焼却すると有害な化学物質が発生させてしまうため、リサイクルされる一部を除き、特別に高温で焼却したり、埋め立てられたりします。しかし、埋め立てられたプラスチックからも有害物質が地中に染み出して、地下水を汚染するほか、汚染されたエサを摂取した動物が死亡したり健康を害したりするなど、環境に悪影響をおよぼします。世界の人口

に関する統計をまとめるWorld Population Review (2024年)によると、世界で最も多くプラスチックゴミを排出しているのは中国で、その量は約3,760万トンにおよび、アメリカ(約2,290万トン)が続きます。この2か国のプラスチックゴミ排出量は、3位以下の国を大きく引き離しています。

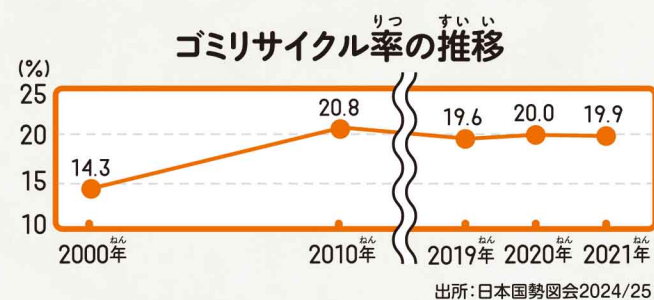
日本のリサイクル率

ゴミのリサイクルは、ゴミ問題を解決するための大きなテーマです。最後に、日本でゴミがどれくらいリサイクルされているかをくわしく見てみましょう。世界の国と比べて、進んでいるといえるでしょうか。

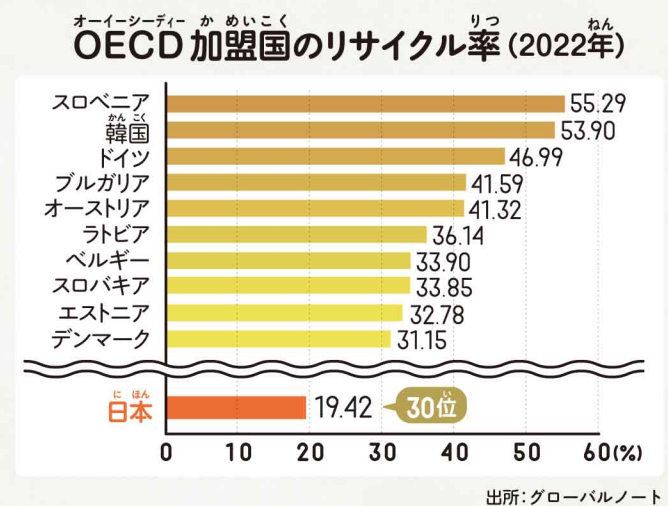
分別回収はできているが、日本のリサイクル率は高くない

日本ではゴミの分別回収が進んでいます。そのため、すべての資源のリサイクルが進んでいると考えがちですが、実はそうではありません。確かに、ペットボトルや缶、紙類のリサイクルは進んでいます。プラスチックの「リサイクル率」はまだ低いのが現状です。リサイクル率とは、排出されるゴミの総量に対する、リサイクルされるゴミの量の割合のことです。

OECD加盟国の中でリサイクル率が高い上位10か国を見てみましょう。この10か国のうち、9か国がヨーロッパ



の国々です。アジアの韓国は日本よりもゴミが厳しく分別されていて、リサイクルのシステムが整っているため、世界第2位の高いリサイクル率になっています。参考までに、都道府県別のゴミのリサイクル率の上位10位までを見てみると、1位の鳥取県でも28.3%です。



「5R」で環境にやさしい社会を目指す

このように、世界的には日本のリサイクル率は高いとはいえません。2000年に公布された「循環型社会形成推進基本法」という法律で、3R（リデュース、リユース、リサイクル）などの考え方が定められました。最近はこの3Rに、Refuse（リフューズ）、Repair（リペア）を加えた「5R」という、ゴミをより減らすことを意識づける取り組みが進められています。Reduce：ゴミ

の量を減らすこと。Reuse：ものをくり返し使うこと。Recycle：使い終わったものを資源として再利用すること。Refuse：すぐにゴミになるようなものを断ること。Repair：壊れたものを修理して使い続けること。
たとえば、商店でのレジ袋を断る、ペットボトル飲料を買うかわりに水筒を持ち歩く、壊れたからといってすぐに新しいものを買わずに修理するなど、できることは少なくありません。

単位：%

出所：データでみる県勢2025

